

1.1哲学を研究する大学院生および非一常勤職研究者が現在置かれている現状を踏まえて次の設問にお答え下さい。現在、大学院生および非一常勤研究者に対して、迅速に対応すべき問題は何だと思えますか。

★生活面・就業面

ID	自由記述内容	学会	年齢	性別
2	哲学研究者は不要では	日本哲学会	63	男
31	言語哲学研究者が多数を占めるような全国規模の学会がない。	日本哲学会	27	男
34	国立大学では非常勤ポストが予算削減と同時に進行している。	社会思想史学会	48	男
39	カリキュラムの再編により、哲学をはじめとする基礎科目のほか、特に第二外国語の非常勤職が減少している	社会思想史学会	29	男
41	社会的身分の低さ(海外では知財として扱われるのに対し、学位を取得しても社会で評価されず専門知識を活かす場も少ないため大学に職を得る以外ほとんど活路がないこと)	不明	36	女
72	当事者でないのでよくわからない。	科学基礎論学会	40	男
73	非常勤職が平等に行きわたっていない	科学基礎論学会	33	男
87	日本での採用基準が不透明(コネの存在?)	科学基礎論学会・科学哲学学会	34	男
117	契約社員の無期化による最低身分の固定化	科学基礎論学会	35	男
122	文系は、短時間では成果を出し難い	ハイデガー・フォーラム	75	女
128	教員も学生も自分の生活面に問題があり、研究どころでない	日本科学哲学学会	36	男
148	公募における業績評価の恣意性が現存している	日本現象学会	38	男
152	専任との格差 仕事内容はほぼ同一	日本哲学会	47	男
162	妊娠・出産・育児への無理解	慶応義塾大学 哲学科メーリング リスト	37	女
195	授業料が高すぎる。経済的支援が不十分。	日本哲学会	49	男
199	まともな研究を出さないものが複数の非常勤ポストを独占している	若手	25	男
210	広く社会的に活躍する径路と理解が必要	社会思想史学会	59	男
211	日本の大学における哲学や倫理学のポストの減少	日本倫理学会	34	男
212	院生はそこそこのステータスなので、安住しがちである。しかし先がないことに教員・学生が目をつぶっている。	日本倫理学会	39	男